ハイライトレポート

2025.11.05

生成AI活用の第一歩：上手な付き合い方とリスク対策

生成AIの上手な付き合い方と業務活用のヒントを整理

生成AIは世界的に急速に普及し、生活・教育・ビジネスの現場で身近な便利ツールになりつつあります。しかし、海外で企業利用が進む一方、日本では正しい理解や活用が十分に進んでおらず、利用に慎重な姿勢が見られます。本ウェビナでは、生成AIの基本的な仕組み、上手に付き合うためのコツ、業務で活用できる具体的なユースケースのヒント、そして利用時に注意すべきリスクとその回避方法について解説しました。

日本における利用状況（海外との比較）

総務省の情報通信白書によると、2024年度時点で日本の生成AI利用は海外に比べて**大きく遅れています**。個人利用では**米欧・中国が6～8割**に達するのに対し、**日本は3割弱**。企業での業務活用も米欧・中国が9割、日本は約5割程度です。

この現状は、日本が生成AIの浸透で“かなり遅れている”ことを示しています。ただし、これは裏を返せば、企業や業務において生成AIを活用した効率化や付加価値創出の余地が大きい――つまり、まだ大きな“**伸びしろ**”があるとも言えます。

生成AIと上手く付き合うコツ

ウェブ検索でキーワードを工夫するように、生成AIも「どう伝えるか」で結果が変わります。この工夫を「**プロンプトエンジニアリング**」と呼び、生成AIとの対話の質を高めるためのポイントは次の5つです。

① **方向性を示す**（望むスタイルや視点を伝える）
② **出力形式を指定する**
③ **例を示す**
④ **品質を評価する**
⑤ **タスクを分割する**

これらを意識すれば、生成AIは単なるツールではなく、“賢いパートナー”として活用できます。

ビジネスにおける生成AIの価値

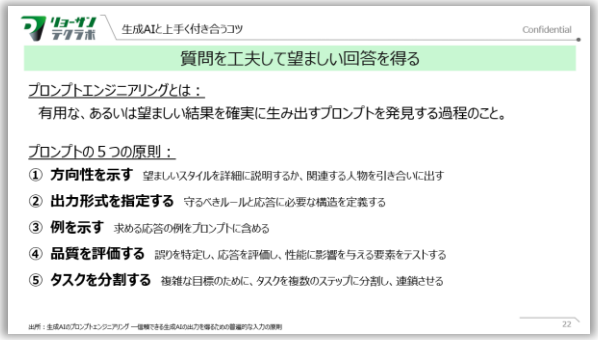
右の図は「ビジネスにおける生成AIの価値」を4つの領域で整理したものです。縦軸は効果の広がり（社内か、顧客・社会までか）、横軸は効果の方向性（効率化か、価値向上か）を示しています。

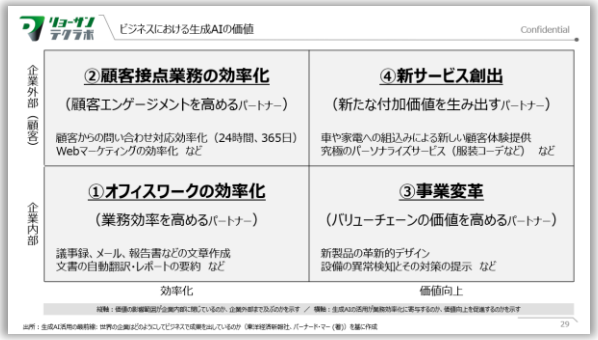
① **社内業務効率化**：議事録作成や翻訳など
② **顧客接点業務の効率化**：チャットサポートなど
③ **企業内部の価値高度化**：設計支援や異常検知など
④ **価値創造**：新しい製品体験やサービス創出

生成AIは単なる業務支援ツールではなく、“価値を共に創るパートナー”へと進化しています。

■ 本日の登壇者 ■

株式会社リョーサン
技術本部 応用開発部
プロフェッショナル
江田 昌隆





他記事、ウェビナ情報はこちら

リョーサンテクラボ
エンジニアによりそうマガジンサイト

Copyright© Ryosan Company Limited All rights reserved